



小学校6年生の保護者のみなさまへ

～「令和7年度全国学力・学習状況調査及びすくすくウォッチ」の結果について～

河内長野市立天野小学校

《基本的な考え方》

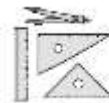
全国学力・学習状況調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況の把握・分析を行い、教育施策の成果と課題の検証及びその改善を図ること。また学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを通じて教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的にしています。

またすくすくウォッチは、子どもたちに各教科の学力に加え、ことばの力や文章、情報を読み取り考える力、様々な情報を活用する力、そして「見えない学力」と言われるねばり強さや好奇心などを育む、大阪府としての取り組みです。

これらをふまえて、本校では、次に挙げるような成果が期待されると考えております。

○子どもたちは、それぞれの学習の到達状況を知ること、学習意欲を高め、自ら目標を持って今後の学習の改善や励みになる。

○学校は、自校の状況をより詳細に分析することで、子どもたちの確かな学力及び教員の指導力・授業力の向上につながる。



《調査結果の取り扱い》

◇本調査により測定できるのは、学力の限られた一部分であり、学校における教育活動の一つの側面です。すべての学力を捉えられているものではないことに十分留意して取り扱う必要があります。

◇学校は、「子どもにどのような力がついてきたのか」「学校がどのような教育を進めているのか」「子どもの学習状況や生活習慣等にどのような良い点・課題があるのか」など、一人ひとりの学力向上の取り組みの改善とともに、学校における課題を整理して、課題改善する取り組みを進めていきます。



《お願い》

□学習への意欲は、子どもの自尊感情と大きな関係があります。友だちやきょうだいと比較することは、意欲を低下させる場合があります。今回の結果からお子様の伸びや課題を知り、まずはお子様の良いところを褒めてください。その上で、課題について頑張って克服できるよう励ましてあげてください。そのことがお子様の学習意欲を高めることにつながります。

□学力の向上は学校が主にその役割を担いますが、各家庭におかれましても、今回の結果を子どもたちの基本的な生活習慣の見直しや今後の家庭学習の進め方等の参考にさせていただきますようよろしくお願いします。

□調査結果のうち、正答率については、調査に参加した子ども並びに保護者の方にのみ提供しているものです。学校間の序列化や過度な競争につながらないよう、その取り扱いについては、十分にご留意いただきますようお願いいたします。

令和7年度 全国学力・学習状況調査及びすくすくウォッチの分析

学力・学習状況調査の概要

河内長野市立天野小学校 6年生

国語

設問番号	学校の平均正答率
1一	36.4
1二	59.1
1三(1)	54.5
1三(2)	50.0
2一	72.7
2二	77.3
2三	45.5
2四 ア	68.2
2四 イ	54.5
3一	86.4
3二(1)	68.2
3二(2)	22.7
3三(1)	27.3
3三(2)	36.4

概要

目的や意図に応じて集めた材料を分類したり関係づけたりして自分の考えと結び付ける問題が出題されました。観点別正答率では「知識・技能」が67.0%で、「思考・判断・表現」は49.1%の正答率でした。また、選択式は54.0%、短答式は63.6%、記述式は40.9%の正答率でした。

特に成果が見られた問題例

- ・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができるかどうかをみる問題。
- ・図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題。

特に課題が見られた問題例と今後の対策

- ・事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる問題。
⇒読解プリントなどで読解力を鍛えていきます。また、読み取ったことを短い文章でまとめる力をつけていきます。
- ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けて必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題。
⇒条件を満たして書く練習を行うとともに、書いた後に見直しをする習慣をつけるようにします。

算数

設問番号	学校の平均正答率
1(1)	63.6
1(2)	27.3
1(3)	54.5
1(4)	72.7
2(1)	63.6
2(2)	54.5
2(3)	72.7
2(4)	22.7
3(1)	59.1
3(2)	18.2
3(3)	27.3
3(4)	63.6
4(1)	72.7
4(2)	22.7
4(3)	54.5
4(4)	36.4

概要

「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」の各領域から出題されています。観点別正答率では「知識・技能」が57.1%で、「思考・判断・表現」は39.0%の正答率でした。また、選択式は59.1%、短答式は56.8%、記述式は22.7%の正答率でした。

特に成果が見られた問題例

- ・示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができるかどうかをみる問題。
- ・平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる問題。

特に課題が見られた問題例と今後の対策

- ・小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかをみる問題。
⇒小数の基礎基本を定着させ、反復練習を行います。
- ・伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見いだし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題。
⇒情報量の多い問題に慣れさせ、どの情報を使えばいいのか、正しく判断できる力をつけさせるようにします。

理科

設問番号	学校の平均正答率
①(1)	63.6
①(2)	59.1
①(3)	72.7
②(1)	18.2
②(2)	22.7
②(3)	54.5
②(4)	59.1
③(1)	45.5
③(2)	18.2
③(3)	45.5
③(4)	22.7
④(1)	27.3
④(2) イウ	40.9
④(2) エオ	31.8
④(3) カ	45.5
④(3) キ	45.5
④(3) ク	45.5

(無解答率について)

各教科における無解答率については、記述問題で高くなる傾向が見られました。どのように書けばよいか分からない児童が多かったと思われるとともに、記述問題で求められる、書かれている内容を適切に理解し、整理する力が不足しているとも考えられます。無解答率を下げるためにも、様々な問題に触れさせて解答の書き方を学習させるとともに、書かれている内容を整理する練習もさせます。また、授業の中で『間違ってもよい。』という意識や、どんな解答も認められるという気持ちを持たせることで、自信を持って解答する児童が増えるようにも取り組みたいと思います。

すくすくウォッチ (教科横断的な問題わくわく問題)

観点別	学校の平均正答率
A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえる。	77.5
B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに論理的に考える。	75.0
C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに新たな課題を考える。	43.5
D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに自分の考えをまとめ、伝える。	68.1
E 興味関心のある事からについて、意欲的に工夫して相手に伝える。	43.5

概要

「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」についての出題がありました。観点別正答率では「知識・技能」が39.2%で、「思考・判断・表現」は44.9%の正答率でした。また、選択式は40.5%、短答式は47.7%、記述式は40.9%の正答率でした。

特に成果が見られた問題例

- ・赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうかをみる問題。
- ・乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる問題。

特に課題が見られた問題例と今後の対策

- ・身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる問題。
⇒下学年で学習した内容を定着させるためにも、定期的に復習問題に取り組みます。また、実生活と結び付けて内容の定着を図ります。
- ・顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる問題。
⇒実験や観察の際に、体験する活動を多く取り入れます。また、実験機器を積極的に使用することにより、機器の使い方や理科用語の定着を図ります。

概要

身近な飲み物であるミックスジュースを切り口に、資源をむだにしないことなど、環境をテーマとした題材や、地域で行われる防災訓練を題材とした問題、近年、さまざまな社会的場面で活用されている「ナッジ」を題材にした問題から、読み取った情報に基づいて抽象化して考える力や、目的に合う自分の考えを理由とともに伝える力を問う内容、論理的に思考し問題を発見・解決していく力を問う内容が出題されました。

特に成果が見られた問題例

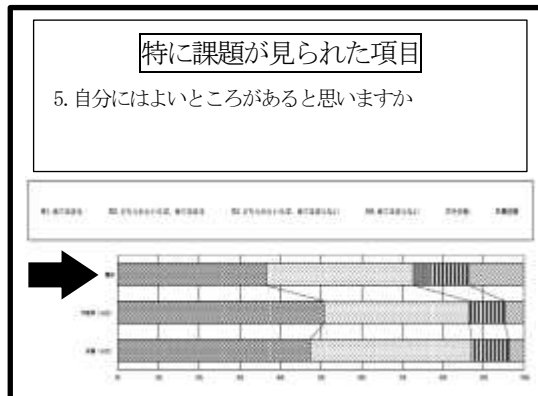
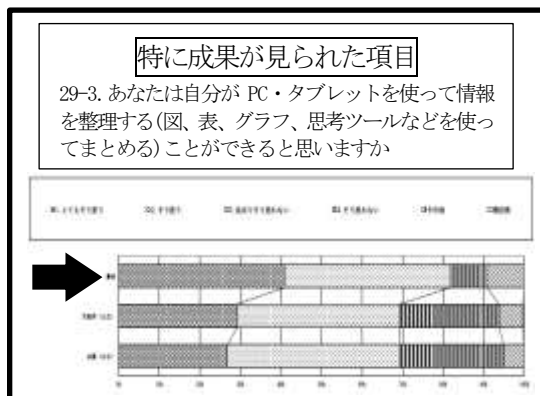
- ・「ナッジ」を題材として、資料や会話の内容を適切に読み取り、資料の情報を整理して思考する問題。

特に課題が見られた問題例と今後の対策

- ・身近な飲み物であるミックスジュースを切り口に、読み取った情報に基づいて抽象化して考える力を問う問題。
⇒知らない言葉に積極的に触れ、語彙を増やしていくためにも、音読をくり返しさせ、わからない言葉を自分で調べさせたり、読書をする習慣を身につけさせたりしていきます。
- ・ナッジの有効性を理解し、身の回りで適用する方法を考えることを通して、自分の考えを条件のもとに書く問題。
⇒キーワードを指定して作文させるなど、条件付きで文章を書かせる練習に取り組ませます。

学力・学習状況調査及びすくすくウォッチの概要

児童アンケート



概要

目標にむかって頑張る力、人と関わる力、気持ちをコントロールする力、好奇心についてアンケートがありました。また、学校の様子や、授業での様子、授業以外の様子や学校以外の様子についても項目がありました。

特に成果が見られたアンケート項目例

「29-3. あなたは自分がPC・タブレットを使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると感じますか」という項目に、「当てはまる」と回答した児童が多かったです。普段からタブレットを積極的に活用し、自分の意見をまとめる活動をしていることが要因だと考えられます。

特に課題が見られたアンケート項目例

「15. 自分にはよいところがあると思いますか。」という項目では、「当てはまる」と回答した児童の割合が大阪府や全国よりも低かったです。自己肯定感を高め、自分に自信を持たせるためにも、小さなことでも褒めて伸ばしていければと思います。

<その他のアンケート結果より抜粋>

良かったところ

- 学校の授業時間以外にもしっかりと学習している児童が多いです。
- PC やタブレットを活用して学習をしている児童が多いです。
- 朝食を毎日しっかりと食べてきている児童が多いです。
- 生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をする児童が多いです。
- 国語や算数、理科の授業が得意、好きと感じる児童が多いです。

課題として見られたところ

- 友だちが困っているときに助けてあげるべきだと思う児童が少ないです。
- 学校に行くのが楽しいと思えている児童が少ないです。
- 普段の生活の中で、幸せな気持ちになると感じる児童が少ないです。
- 人の役に立つ人間になりたいと思う児童が少ないです。

結果を受けて

(1) 学校が重点的に取り組んでいくこと



◎読み書きを中心とした授業づくり

- ・自分の考えをノートに書いたり、授業の終わりにはふりかえりの時間を確保して、自分の思いや学んだことを書いたりする活動を取り入れます。
- ・今年度から児童朝会で作文タイムを設け、自分の思いを書いたり伝えたりすることの楽しさや、発表を聞くときの姿勢などを学んでいきます。
- ・毎週1回の朝学習の時間を読書タイムとして設けています。この時間を活用して読書量の増加を図ります。また、音読に積極的に取り組み、読むことの楽しさを感じられるような取り組みを行います。

≪ 授業では ≫

- ①場面に応じて具体物を使って作業をさせながら考えさせる授業を意識します。
- ②算数科では、計算の仕方だけを理解するのではなく、計算や問題の解き方の意味を理解させながら正答を導き出せるようにします。また、自分の考えを積極的に書かせ、交流して理解を深めます。
- ③図やグラフ・表から情報を読み取ったことをもとに自分の考えを持ち、表現できるようにします。まとめる際にも、タブレットなどを活用し、分かりやすくまとめる練習をさせます。
- ④深い学びのためにも、理解したことを活用して考えを説明する力をつける内容を取り入れるようにします。
- ⑤めあてやまとめを特に大切に、児童一人一人が見通しをもてるように、授業の流れや学習の計画を共有します。
- ⑥理科では、授業で学んだことを普段の生活の中でも意識できるように声かけを行います。また、積極的に観察や実験を行わせ、理解を深めさせます。

《 個々のつまずきの発見 》

すすくウォッチの結果を受けて、個々の児童がどのような分野を苦手だと感じているのか、苦手だと感じる分野にどのような傾向が見られるのかを考察する必要があると感じました。タブレット教材のeライブラリなどを活用し、苦手な分野を発見したり、苦手だと感じる分野でのフォローをしたりします。

《 学習意欲の向上 》

児童の学習意欲を引き出すために体験型学習など、成功体験を味わえるような活動を工夫し、主体的に自ら進んで学ぶことができるように、タブレットや本を活用した調べ学習を行い、それらから探究活動へつなげていきます。授業内でもたくさん褒め、自己肯定感の向上に努めます。

《 複数の資料を関連させて問題を読み取る活動 》

算数の文章題や、理科の問題、社会の資料の読み取りなどでは、複数の資料を読み取る力が必要となります。また、読み取った内容を関連付けながら自分の考えを持つことが大切です。そのためにも、国語科を中心として内容を読み取る力をつけたり、読解力を上げるために新聞ワークシートを活用して、日常の身の回りて起こる社会の話題にも興味をもたせたりして、複数の資料と関連付けながら自分の考えを書く活動に取り組ませます。

(2) 児童のみなさんへ



《 家庭学習の取り組み 》

毎日、家庭学習の時間を確保し、宿題や自主学習を計画的に行いましょう。その際に、特に苦手な教科や分野に時間を使うようにすると、基礎学力の向上につながっていき、応用問題にもチャレンジできるようになります。

《 読書、音読の取り組み 》

図書館や図書室を積極的に利用し、幅広いジャンルの本を読みましょう。また、声に出して本を読むことは、理解力や語彙力の向上につながります。音読することで文章の流れや意味が頭に入りやすくなるので、音読の宿題の際にはそのことを意識して積極的に取り組むようにしましょう。

《 質問や相談をする 》

学習内容で分からないことがあれば、学校の先生やお家の人に積極的に質問しましょう。分からないことを質問することは、恥ずかしいことではありません。むしろ分からないことをそのままにしていると、その先の学習でつまずいてしまいます。

《 聞く力について 》

聞くことは、とても大切な力です。聞く力を身につけることにより、説明や会話の中で話題になる言葉や内容に意識的に触れることができ、話の流れが予想しやすくなります。しかし、聞く力は、急激に身につくものではありません。そのために普段から『最後まで聞く、相手を見る、理解する』ことを意識して、少しずつレベルアップしていきましょう。また、授業中には友だちの発表もしっかりと聞いて、自分の考えとくらべてみるようにしましょう。

《 自分で調べる習慣をつける 》

わからない言葉が出てきたときは、辞書を引く習慣をつけましょう。また、故事成語や四字熟語の本などに関心を持ち、日常生活の会話の中で使ってみるようにしましょう。わからないことをそのままにするのではなく、調べて新たに知ることでより深い学びへとつながります。

(3) 保護者のみなさまへ



《 生活リズムを整える 》

お子様にとって、生活リズムは学習を行う上で最も大切な要素のうちの一つです。規則正しい生活リズムを保ち、十分な睡眠をとることを心がけましょう。また、健康的な食事を心がけ、集中力を保てるようにしておきましょう。

《 計画的な学習の実践 》

日々の学習内容について、確認・管理がしやすいように学習計画表を作成してみるのも一つの方法です。その際に、お子様と相談したうえで、達成可能な計画を作成してみてもいいでしょうか。

《 読書に親しむ習慣づくりを 》

読書をすることにより、新しい情報や知識を得ることができます。これにより、自分の理解や見解を広げることができます。また、読書によってさまざまな単語や表現に触れることで、語彙力や表現力が向上します。本を選ぶ際は、お子様に合った本を選ぶことをお勧めします。年齢や話題を基準とした本が、常にその子に合うとは限りません。興味関心がある本をきっかけに読んでいくと、「読む力」が高まります。「読む力」がついてくると、いずれ文字数が増えたり、専門的な本を選んだりするようになります。いろいろな本を自然と読めるようになると、生活力、学力ともに自立へと進んでいきます。

今後とも、本校の教育活動にご理解とご支援をいただきながら、大切なお子様を保護者のみなさまといっしょに育てていきたいと思っております。今回の結果を参考にさせていただいて、ご家庭でも今後のことについて、お話していただけると幸いです。よろしくお願いいたします。